

発行日 2021年4月23日 特定非営利活動法人 グループホームネット香川



# もくじ

0	巻頭言	2
0	コロナ禍での生活・ワクチン接種	4
0	グループホームの移転について	5
0	退職にあたって	6
0	事務局だより	6
$\bigcirc$	編集後記	7

# 巻頭言

### 福祉と関わって

理 事 河野 幸子

今から9年前のことです。

当時、長男は高校2年生。進路を決める時期でした。選んだ道は「福祉」。

小学校の頃から警察官になりたいと話していたので、夫と私は動揺をかくせませんでした。特に夫は「福祉は高齢者の介護」「おまえには向いていない」「苦労するだけだ」と猛反対しました。しかし長男の意志は固く「なぜ高齢者の介護と決めつける」「福祉には可能性がある」「人と人との関わりやふれあいを大事にしたい」と志を決して曲げようとしませんでした。今思えば夫と私は福祉に対する知識がなかったのでしょう。さまざまな分野があることを改めて知りました。

一方、私はある日の特集番組で「精神障害のある人たちが、地域の一員として暮らしていくには」というテーマの放送を観る機会がありました。それは、障害のある人とその家族を支えて受け入れる町づくりはみんなの安心につながり、精神障害者の退院を地域ぐるみで支援するという取り組みを紹介するものでした。差別や偏見のために、症状が改善しても地域に戻ることができず、長期の「社会的入院」を強いられた人も少なくないという内容でした。地域で自立した生活を応援するという言葉や取り組みに惹かれ、このような仕事に携わってみたいという思いが強まったことがビアーズの求人に応募したきっかけでした。

採用面接では「資格は何も必要ありません」「普通の生活者としての感覚を求めています」と言われたことが今でも印象に残っています。

普通の感覚?戸惑いながらもビアーズ百間町のホームワーカー(HW)としての 業務がスタートしましたが、当初は決して順調とは言えませんでした。

採用後にしっかりと研修を受けていたにも関わらず「入居者にとっていい人でいたい」「私がビアーズ百間町の入居者6名を守るべき立場にある」と使命感のようなものが先走り始めました。振り返ればあの時に抱いた感情はHWが乗り越える最初の試練だったのではないかと思います。

入居者の中でもAさんとの関わりは困難を極めました。面倒なことは避けたい思いから要望はすべて聴きいれ、ご機嫌を損なわないように気を遣う日々。その内、支援や関わりとは全く関係のない別の方向に進んで行きました。



Aさんは私に対して「資格のないHWって何のためにいるの」「別の人に変えてもらいたい」「幻聴や幻覚の経験のない人に私の気持ちなどわかるわけがない」と言いたい放題の毎日。無視されることもしばしば。見かねた他の入居者が私を気遣う言葉をかけてくれ、そのことはとても大きな救いとなっていました。

Aさんから毎日のように勤務後にかかってくる電話。精神面はボロボロでした。翌朝出勤しようとしても激しい動悸と息苦しさとの闘い。やっとの思いで百間町に辿り着いたものの、車から降りることができない日々。

「このままHWを続けてもいいのか、すぐにでも辞めてこの環境から逃れたい」と葛藤し続けました。けれども、あきらめたくない思いが強まり「Aさんとの関わりを続けていこう」と決心しました。こう決心させてくれたのは他の入居者の力が大きかったように思います。

まず取り組んだことはこれまでの支援内容を整理し、自分だけで抱えていた問題を他のスタッフと共有することで支援の方向性を検討していきました。支援に迷いがあれば入居者は敏感に反応してしまいます。これまでのAさんの態度はHWにも原因があったことがわかり、あきらめずに関係性を大事に進めていくことで可能性が見えました。もちろんAさんも次第に落ち着きを取り戻していきました。これらの体験から、長男が福祉の道を選んだ「人と人との関わりやふれあいを大事にしたい」という気持ちがその時わかったような気がしました。

2018年からはAさんの体験を通してBさんとの関わりの中から理事会で推薦され、総会で承認をいただき理事に就任しました。昨年9月からはサービス管理責任者として業務に携わっています。

研修では「支援プロセスの管理」「スタッフへの指導・助言」「関係者や関係機関との連携」の主な役割があること、障害福祉サービスのまとめ役であり、欠かせない重要な位置にあることを学びました。

現在、ビアーズ百間町のHWも兼任し、 慌ただしい日々を送っていますが、先輩サービス管理責任者の背中を追いかけながら奮闘しています。

相手の思いに寄り添った支援は時に違った方向に進むこともありますが、そんな時は一度立ち止まり、Aさんを思いだし原点に戻ることを心掛けています。

ある入居者に「グループホームでの生活はどうですか?」と尋ねたことがあります。「幸せ。毎日が充実している」という返事が返ってきました。あまりの素直な返答に嬉しくなり、グループホームネット香川の目指すものがここにあると感じました。

何かをきっかけに誰もが直面する精神障害。障害があっても、住み慣れた地域の一員として、周囲の人たちと関わりながら暮らし続けていくことは、障害をもつ人の生活の質を支える重要な要素であると感じます。

# 利用者からの声

#### コロナ禍での生活・ワクチン接種について入居者2名から

編集子

中国 武漢から広がりを見せた新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的な流行となり、1年が経過しました。当法人内でも感染症予防対策として、マスクの着用や手指消毒の徹底、3蜜を避けるなど慎重な対応を心がけてきました。入居者、理事、職員ともに「新しい生活様式」に取り組む日々でした。

今回、コロナ禍の1年を通してどんな生活だったかについて、2人の入居者から話を聞きました。

#### "コロナ禍での生活に変化はありましたか"

Aさんは「これまでも家で過ごすことが多かったので、自粛はさほど気にならなかった」「ただ、マスクを着用するのは苦手で特に夏場は暑いので着けるのが嫌だった」「人混みに行くときは着用するが、近所のスーパーに行く道中は着けないなど、自分なりに意識していた」と話してくれました。

Aさんは、この間に入院することもあったので、違いについて尋ねると「入院中にホームワーカーが差し入れなど持ってきてくれていたが、面会ができなかったので心細かった」「外に出ることが少なかったので、体力が落ちたと感じている」と話されました。

Bさんは「持病があるので、コロナのことは気にしている」「でも、自分は大丈夫じゃないかと思っている」「生活はそこまで大きく変わってない」と話し、また別の日には「マスクは、近所のスーパーなど外出するときには着けているし、病院行くときもしている」「感染したらそのときはしかたないとあきらめている」とも話してくれました。

#### "ワクチン接種について"

Aさんは「新型コロナウイルスに感染することは怖いが、ワクチン接種も大丈夫かと不安がある」「接種をするつもりではいるが、その後が怖い」と副反応を気にされていました。

Bさんは「必要と思っているが、不安がある」「連日のテレビを観ていると副反応やらなんやらと言っていて心配はある」とBさんも同様に副反応を気にされていました。

それぞれから、お話を聞く限り大きな変化はなかった様にも感じましたが、生活上の不便さはとても大きなものがあると思いました。また、ワクチン接種に対する不安についても大きな不安を感じていました。

収束までにはもう少し時間がかかりそうですが、感染に気をつけながら生活していく必要を感じました。

# グループホームの移転について

#### 宮脇の移転についての報告

法人一同

2021年2月8日に、かねてより準備を進めていたビアーズ宮脇の移転、入居者の引越しが行われました。

入居者のみなさんも引越しの準備に悪戦苦闘しながら、何とか荷造りもを完了 し、当日を迎えることになりました。

当日は、朝9:00から1人目の荷物の搬出が始まり、最後の方の荷物の搬入が終わるのに17:00過ぎまでかかりました。

これまでの物件と比べて少し狭かったり、日当たりの問題もありますが、以前より高台に移り水害の心配が減りました。また、土砂災害の危険地域からも離れ安全な場所に移転することができました。事務処理や手続きに追われ慌ただしい移転となり、入居者をはじめ関係者のみなさまに大変ご迷惑をおかけしました。

この場をお借りして、改めてご協力に感謝を申し上げたいと思います。

この引越しに際しては一時的に体調を崩された入居者もいらっしゃいましたが、 概ね大きな問題に至らず、何とか移転ができたことに法人一同ほっとしているとこ ろです。

新しい環境に馴染むまで時間が必要かと思いますが、入居者と共に少しずつ前に 進めていければと思います。



外観

新ビアーズ宮脇



居室



台所

# 退職にあたって

定年退職にあたり

山田 真美

13年と9ヶ月 ビアーズ春日でホームワーカーとして仕事をさせて頂きました。福祉の事、障害の事、グループホームでの生活の事、何も分からずにいきなりホームワーカーとなって、皆さんと一緒に毎日過ごす中で教えられた事が沢山ありました。

今では私も「ベテラン」の部類に入ると思いますが、定年退職を迎えた現在でもまだまだ出来ないこと、出来なかったことが色々あったなあと感じています。

ここで学んだ事は、相手を尊重し、いかに人と関わっていくかと言う事だと思います。それはグループホームのホームワーカーだからではなく、どんな人生の場面に於いても共通する課題であり、一生真摯に向き合っていかなければならない事だと学びました。「グループホームネット香川」を退職しますが、これからも学んだ事を大切に過ごしていきたいと思います。

入居者の皆様が健康で、自分らしく生活されます事を願っています。 ありがとうございました。

# 事務局だより

#### 公益財団法人 百十四社会福祉財団助成金

事務局 岩佐 亜紀

2020年末に、公益財団法人 百十四社会福祉財団 様より、助成金のご案内がありました。

香川県内の福祉事業を行っている法人、団体に対して助成を 行い援助を行うことで、社会福祉の向上及び増進に寄与するこ とを目的としているとのことでした。

日々、百十四銀行様にはお世話になっているのですが、今回、お話をいただくまで正直、この助成金の存在を知りませんでした。

早速申請をし、新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策、花粉や黄砂、最近では PM2.5 などアレルギー対策とし

て、各グループホームと事務所へ計5台の加湿機能付き空気清浄機の購入に役立て させていただきました。ありがとうございました。



### 2021年度の年会費の振込のお願い

2021年度の開始にあたり、年会費の納入をお願いいたします。 新規入会も随時受付しています。入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

- ご入会いただいた方には、機関誌「ニーズレター」(季刊)をお送りし、またホームページの会員ページへログインできるようにご案内いたします。
- 正会員の方には、総会での議決権がございます。総会開催の2週間前までに 郵送にてご案内をお送りいたします。

正会員 3,000円 賛助会員 2,000円

【百十四銀行】 中央市場支店 店番 213

普通預金 0252017 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

【郵 便 局】 01670-4-5576

特定非営利活動法人 グループホームネット香川

■ 2021年度総会開催日時のお知らせ

毎年、6月の第2水曜に開催しております定期総会について、2021年度も例年通り開催予定としています。

昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響から、開催要領が変更する 場合がありますので、会員の皆様には改めてご案内します。



# 編集後記

今年の桜の花はいつもの年より早く咲き、カレンダーが4月に変わったときにはもう葉桜になっていました。だんだんと温暖化へと変化していく気候の様子が怖いくらい身をもって感じとられました。

ところで4月という月は、以前から楽しい思い出はなく、寂しかったりイライラする季節で、そのうえ多忙な月でした。別れと出会いの4月は今も昔も変わりなく同じことの繰り返しをしています。

でも、今年の4月は自然に目を向け、人との関わりを求めてモチベーションを 上げ、少しずつ変化を求めていこうと考えています。

(天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先: 香川県高松市成合町559番地15

 $TEL: \ 0\ 8\ 7\ -\ 8\ 8\ 5\ -\ 5\ 2\ 7\ 0 \qquad FAX: \ 0\ 8\ 7\ -\ 8\ 8\ 7\ -\ 5\ 9\ 5\ 5$